

ガス管調査窓口検索

ガス管の位置が不明な場合、日本ガス協会にアクセスし、以下の手順で各地域のガス会社の「ガス管調査窓口」が確認できます。

スマートフォンやパソコンから

日本ガス協会 検索

<https://www.gas.or.jp/gas-pipe/>



step 1

左上のメニューボタンから「ガス管調査窓口検索」を選びます。

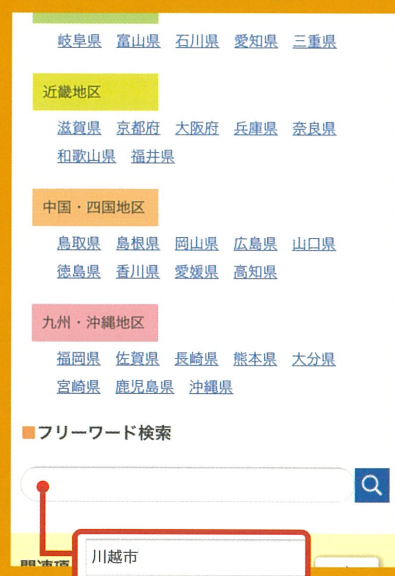


スマートフォンの場合



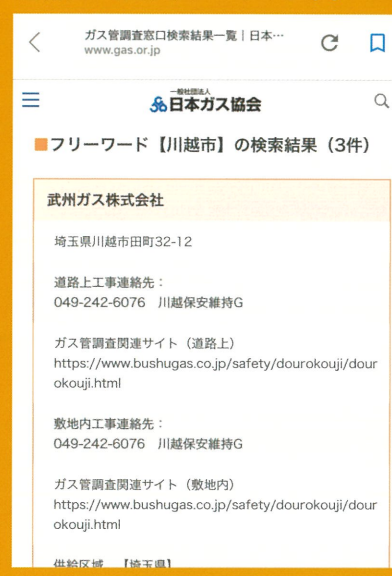
step 2

検索したい都道府県または市名、群名を入力し「検索する」をクリック。



step 3

検索結果一覧からガス会社の連絡先の確認をおこないます。



万一、ガス管を
損傷して
しまったら…

- 1 落ち着いて、すぐにガス会社まで連絡する。
- 2 窓やドアを開けて換気をする。(換気扇は使用しない)
- 3 火気や電動工具は使用しない。
※コンクリートカッター・はつり作業、配管切断作業で発生する火花も着火源となります。
- 4 周囲へ周知、状況に応じて避難と避難誘導をする。
- 5 可能な場合はガスの噴出を止める。

ガス漏れ時の緊急連絡先

仙台市ガス局 ガス漏れ専用ダイヤル

022-292-6663

(24時間受付)

— 掘削、解体・撤去、増改築・改装工事をされる皆様へ —

ガス管損傷による事故を起こすと、

ケガ・火傷

のほか、

火災・爆発

など近隣住民への迷惑、加えて

工事停止 損害賠償 労働災害

に発展し、

会社に損失が生じることとなります。

必ずやろう >>> 安全確認基本チェックシート

掘削 工事をする方へ

道路・敷地内を掘削（はつり・カッター含む）・杭打ち・整地など

解体・撤去 工事をする方へ

建物や構造物を取り壊す

増改築・改装 工事をする方へ

既設建物や設備の改修

工事前確認

- 道路 道路を工事する際はガス会社※へ連絡・協議しましょう
- 敷地内 ガス管の図面は持っていますか？
 工事範囲にガス管がないか確認しましょう
 「ガス管の位置・深さ」はわかりますか？
 「ガスが通じているか」わかりますか？
- ガス管を損傷する恐れがある場合は、必ずガス会社※へ連絡しましょう
 不明な点はガス会社※へ確認しましょう

※裏面の「ガス管調査窓口検索」を参照

- 解体建物のガス管にガスが通じていないことを確認しましょう
 ガスが通じている場合、ガス会社へ切断処理を依頼しましょう
 解体建物に別の建物のガス管が通っていないか確認しましょう（例：解体するA棟の中に、B棟のガス管がある場合など）
 ガス管を損傷する恐れがある場合は、必ずガス会社※へ連絡しましょう
 不明な点はガス会社※へ確認しましょう

※裏面の「ガス管調査窓口検索」を参照

- ガス配管の図面は持っていますか？
 工事範囲にガス管がないか確認しましょう
 「ガス管の位置」はわかりますか？
 「ガスが通じているか」わかりますか？
 ガス管を損傷する恐れがある場合は、必ずガス会社※へ連絡しましょう
 不明な点はガス会社※へ確認しましょう

※裏面の「ガス管調査窓口検索」を参照

工事時確認
（現場確認）

- ガス会社との事前打合せから工事内容や日程を変更する場合は、ガス会社へ連絡しましょう
 工事場所付近にガス管の標示※がある場合、付近にガス管があるため注意して作業しましょう
 工事場所付近にガス管があることを確認した場合、ガス管付近は慎重に手掘りで行いましょう

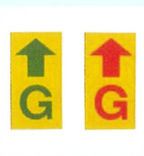
※【埋設ガス管の標示例】



標示杭



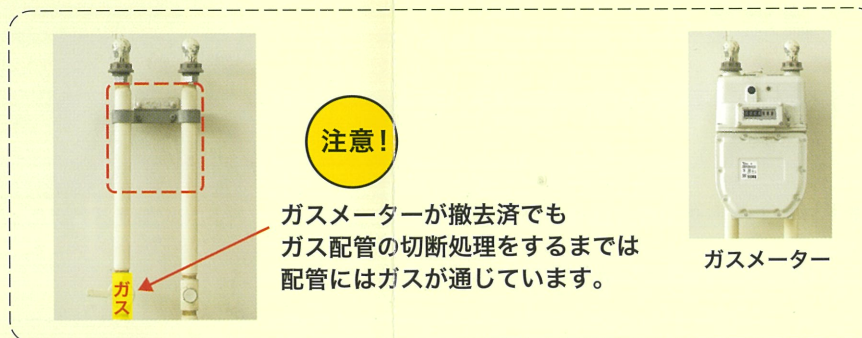
標示ピン



標示シール

注意！ 埋設ガス管にはポリエチレン管が多く使われています。材質がポリエチレンというプラスチックのガス管で、衝撃が加わると破損してしまいますので、十分ご注意ください。

- ガス会社との事前打合せから工事内容や日程を変更する場合は、ガス会社へ連絡しましょう
 作業対象にガスメーターが設置されている場合、ガス管の切断処理をガス会社へ依頼しましょう



ガスメーター

- ガス会社との事前打合せから工事内容や日程を変更する場合は、ガス会社へ連絡しましょう
 これから作業する配管が目的の配管で間違いがないか確認しましょう
 はつり・穴あけ・壊し作業付近にガス管があることを確認した場合、ガス管付近は慎重に作業しましょう

【露出ガス管の標示例】



ガス管標示シール

【ガス管損傷の例】



コンクリート内のガス管をドリルにより損傷した例

事故事例

下水工事のカッター作業中にガス管を損傷。漏えいしたガスを止めようと、周りのコンクリートをはつた際の火花で着火。作業員1名が顔面と両腕に火傷を負いました。



建物解体工事中に、水道管とガス管を損傷し、水道管から噴出した水がガス管に入り、周辺の約150戸のガスがストップ。事故を起こした工事会社は多額の損害賠償を請求されました。



改修工事に伴う排水管工事の際、設備図面の十分な確認をせず排水管と思い込み、ガスが通じているガス管に穴をあけ、電動工具の火花で着火。作業員1名が火傷を負いました。

